

「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」(第10回選定)

有識者懇談会概要

日 時：令和5年11月10日(金) 16:45~17:15

場 所：総理大臣官邸4階大会議室

出席者：

(政府) 松野内閣官房長官、宮下農林水産大臣、自見内閣府特命担当大臣、
森屋内閣官房副長官、小里総理大臣補佐官、
長井農林水産省農村振興局長、佐藤農林水産省農村政策部長

(委員) 林座長、あん委員、田中委員、永島委員、藤井委員、向笠委員、横石委員

概 要：

(林座長)

本日は、第10回選定となる「ディスカバー農山漁村の宝」の選定地区の決定並びにグランプリ、優秀賞及び第10回記念賞の決定について御議論をいただくのでよろしくお願ひしたい。

【事務局説明及び意見交換】

(長井農村振興局長から、資料に基づき、第10回選定の選定地区並びにグランプリ、優秀賞及び第10回記念賞の候補について説明。)

(委員からいただいた主な意見は以下のとおり。)

- ・ インスピレーションを与えてくれる応募が多かった。異常気象など暗い課題がある中で多様な取組をしている農山漁村の活動は本当に素晴らしい。農林漁業だけでなく、アート、スポーツなどの連携も見られた。
- ・ ディスカバーというのは見出す、発見するという意味であり、有識者委員として責任をもって発掘に当たり、見つけたものには愛情を持って成長に関わってほしいと思っている。回を重ねて応募者の資料やプレゼンテーション力が向上している。経営力が高く収益、雇用や事業拡大も果たし、各地に事業を興してコミュニティを形成し、多様な人の力を活かしている取組が選定された。
- ・ 戦国時代、宣教師(ルイス・フロイス)が日本に来て、日本の技術力に驚愕したと聞く。製炭や羊毛加工など技術力を持っている人たちが選定されている。こういった方々を育てていくことが農山漁村をまもり、この国をまもっていくことにつながると考えている。
- ・ コロナで3年間は本当に疲弊し地方は大打撃を受け、コスト増、人口減少が加速した。ディスカバー農山漁村の宝が有名になり、選定地区へ訪れてもらうことが重要だと思う。幅広くメディアに掲載して頂きたい。
- ・ 郷土料理や伝統食などの活動の中心は農山漁村の女性達であり、今回の選定地区

の中にその目覚ましい例が上がっている。今、外国人旅行者が増えている中で、日本で食べたいものは、伝統食、郷土料理であり、今後も応援していきたい。

- ・ コロナ直後であってもディスカバー農山漁村の宝の応募数が非常に多い。地域活動を応援したいというこの思いに対して行政や我々委員で応援していきたい。
- ・ 今回で10回目になるが、ディスカバー農山漁村の宝は素晴らしい企画。国民の中にはこの企画を知らない人もいる。委員の皆にも更に活躍いただきながら知名度を向上させたい。

(林座長)

意見交換を終了する。

第10回選定の選定地区並びにグランプリ、優秀賞及び第10回記念賞について案のとおり決定することよろしいか。

(異議なしの声)

(林座長)

それでは決定とさせていただきます。

(事務局)

閉会に際して、自見内閣府特命担当大臣、宮下農林水産大臣、松野内閣官房長官から御挨拶賜りたい。

【閉会挨拶】

(自見内閣府特命担当大臣)

- ・ 地域の実情を踏まえた取組が選定され、デジタルの力を活用した地域の所得向上に貢献する取組や創意工夫を凝らした地方創生に直結する取組が多かったと感じている。
- ・ 政府としては、各自治体や企業・大学、地域団体等と連携した活力ある地方を創り上げていくために、豊かな自然、観光資源、文化といった農山漁村地域が誇る資源を最大限に活かし、地方創生政策を推進している。
- ・ ディスカバー農山漁村の宝の選定を通じて多くの地域に刺激を与え、革新的な取組が全国各地で広がっていくことを期待している。

(宮下農林水産大臣)

- ・ 地域の子供たちを対象に、食育教育の先生を勤める高校生の取組や、良質な卵をスイーツに加工するほか、レストラン、ベーカリーでも卵の新しい可能性を拓いて、売上を大きく伸ばした地区のほか、選定後も取組を発展させている第10回記念賞が選ばれた。

- ・ これらの宝を国民に知っていただき、全国に素晴らしい取組がもっと広がるように全国にしっかりと情報発信していく。

(松野内閣官房長官)

- ・ 本年は、関係人口の創出に貢献する取組や、農林水産業にとどまらない福祉などの幅広い分野との連携、環境を重視した取組が目立っていると感じた。
- ・ 地場産「あなご」の旨味をデジタル検証し、観光業などと連携しながら魅力を発信し、ブランド化することで地産地消を推進している事例や多様な団体や人材が参画し、地方活性化につながる優良事例が選ばれたことは政府としても大変心強いことである。
- ・ 今回の 29 件を加えると第 1 回から数えて 315 件が優良事例として選定されたことになる。政府としても、参加者の工夫や熱意の発信に努めていきたい。

【閉会】

(以上)